

第4章 基本目標と施策の方向性

第3章で示した札幌市における葬送に関する具体的な問題を踏まえ、ビジョンを実現するための長期的な視点に立った3つの「基本目標」と、それぞれを達成するための「施策の方向性」を示します。

基本目標①

葬送について考え行動する 市民の意識を醸成します

ビジョンの実現には、市民が葬送のことを自分事として考え、行動するという意識を持つことが欠かせません。このような葬送に関する意識を醸成していくため3つの施策の方向性を設定しました。

《意識醸成に関する施策の方向性》

㊦ 葬送の準備をすることの意義や必要性を広めます

- 「生前のうちに葬送の準備をすることは葬送に関する不安を解消して人生をより豊かにすることに繋がる」という考え方を市民に浸透させます。
- 葬送の準備をしていたとしても、身近な人がそのことを知らなければ、万が一の時に役立てることができませんので、準備したことを身近な人と共有する必要性を、色々な視点で広報し、働きかけます。
- 葬送を準備するのに必要となる火葬場や墓地の利用に関する制度や仕組みなどの基礎知識も、併せて周知していきます。

㊧ 火葬場・墓地に関する問題と取組への理解を求めます

- 多死社会が訪れることによって今後深刻化する火葬場や墓地に関する問題を、しっかりと市民に理解してもらうための周知・啓発を進めます。
- これらの問題解決に向け、今後検討する火葬場や墓地に関する制度や運用の変更による効果を最大限に発揮させるため、市民の積極的な活用を促す啓発も進めます。

㊨ 葬送関連事業者との連携による取組を進めます

- 親族などが亡くなった際に市民が葬儀やお墓のことで接する「窓口」となる葬祭業者や墓地経営者、葬送に関する支援を行うNPO法人などとの連携体制を構築して、市民への情報発信を行うとともに、市民の葬送に関する意識醸成や困りごとへの対応を進めます。

多死社会においても安定運営可能な火葬場を実現します

火葬場に関しては、今後訪れる多死社会においても、安定的に火葬を行えることが重要です。このような火葬場を実現するため、4つの施策の方向性を設定しました。

《火葬場に関する施策の方向性》

① 遺族に寄り添った視点による火葬場運営を継続します

- さらに火葬件数が増えていくことに対しては、火葬業務の効率化によって多くの件数をこなすのみならず、現在の火葬場の運営と同様に、故人の最期を送る場所に相応しい、遺族に寄り添った視点での対応を継続し、これらを両立させます。

② 施設整備・運用改善の両面から最適な運営体制を構築します

- 多死社会に対応した火葬場とするためには、火葬炉の増設や火葬場の建替えなどによる火葬能力の確保と、災害時への対応も考慮した施設整備について検討する必要があります。
- これらに加えて、現在休場としている友引日の翌日(友引明け)や午前中に集中する火葬件数の分散化などの運用改善や、より効率的な施設の運営手法についても併せて検討し、最小限の施設整備で増えていく火葬件数に対応できる運営体制を構築します。

③ さっぽろ圏における効率的・安定的な火葬体制を検討します

- さっぽろ連携中枢都市圏ビジョンに基づき、札幌市周辺の市町村も含めたさっぽろ圏における火葬場の効率的・安定的な運営の維持、災害時の協力体制について、今後の火葬件数の予測や既存火葬場の老朽化度合、利用実態などを踏まえ、検討を進めます。

④ 火葬場の使用に係る費用負担のあり方を見直します

- 多死社会に対応した火葬場を実現するためには、施設整備や運用改善など、多岐に渡る取組を検討・実施する必要があります。
- これらの財源を確保するため、取組に要する費用を精査した上で、火葬料や特別控室などの火葬場の使用に係る費用負担のあり方を見直します。

墓地に関しては、今後さらに進展する少子高齢社会においても、無縁墓が増えることなく、持続可能な運営が求められます。このような墓地を実現するために、4つの施策の方向性を設定しました。

《墓地に関する施策の方向性》

㉞事業者との協働により市民の墓地ニーズに対応します

- 民間墓地経営者や宗教法人は、札幌市における墓地や納骨堂の供給を担い、札幌市はこれらへの指導監督と身寄りの無い人などのお墓のセーフティーネットとしての役割を担います。
- それぞれの役割を踏まえ、相互の情報共有や連携の強化を進め、協働によって多様化するお墓のニーズに対応していきます。

㉟市営霊園の無縁墓対策を進めます

- さらなる無縁墓の増加による霊園管理上の支障を未然に防ぐため、既に無縁化している墓への対応と新たな無縁墓の発生抑制の両面から対策を進めます。

㊱安全で利用しやすい市営霊園へ改善します

- 市営霊園内の老朽化したさまざまな設備や管理事務所などについて、事故を未然に防ぐための改修や機能改善によって、より安全で利用しやすい霊園へと変えていきます。

㊲市営霊園と旧設墓地の使用に係る費用負担のあり方を見直します

- 少子高齢社会に対応した市営霊園と旧設墓地の安定的な維持・運営を実現するために、各霊園・墓地の施設改修や運用改善に必要な取組にかかる費用を精査した上で、公平・公正な料金制度となるよう費用負担のあり方を見直します。